

めんたるねっと

VOL. 16-4

No. **64**

就労の現場から	短期職業訓練「トライ」の成果 ～15年の受託を通して～	2
YMSNの活動	プレジョブスクール / 一区切りの修了式・ワークブックの完成	5
被災地より	新型コロナウイルス問題と東日本大震災	6
YMSNの活動	中学高校生の放課後支援 Irodori / 活動報告	7
	アルバイトを通して YMSN の活動で学んだこと	8
	ジョブコーチ / 若者の支援で出会う出来事	9
	事務局より / 予定・報告	10



短期職業訓練「トライ」の成果

～ 15年の受託を通して ～

本年度（2019年2月28日）をもって、トライ就労準備科（委託訓練・職業訓練）の受託を終了しました。終了の決断に至ったのは、前年、予定していた人数に対して受講希望者が6割しか集まらなかったことです。本年度総会にて、新しいニーズに合わせた、YMSNらしい展開の必要性ということから、終了を決めて最終年になりました。

そして、今年度は21人募集のところ、受講を希望された方は8人、うち2人は途中辞退という結果になりました。YMSNが神奈川県と共に実施してきた精神障がい者の方を対象にした職業訓練の形の必要度が低くなったということが数字で証明されました。

この背景には、就労支援事業についての制度の充実が大きいと思われます。精神障がい者福祉保健手帳、雇用促進法の改定によって、精神障がい者福祉保健手帳を持っている方の就職が促進されてきたこと。それに伴い、ハローワーク専門援助での精神保健福祉士、心理士の配置など、前向きな制度改革がなされたことだと思っています。

そこで今回は、トライの総括としてまとめのご報告をさせていただきます。

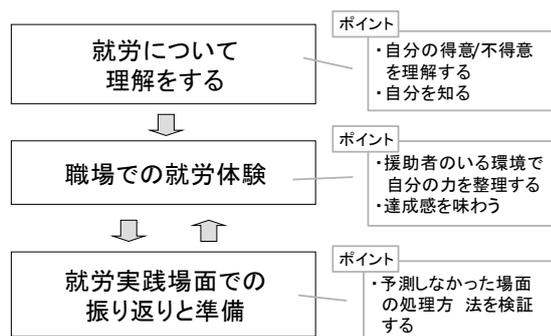
トライは2004年、神奈川県の産業労働局の「障がい者向け、短期職業訓練トライ」の説明会に参加した

ことから始まりました。当時、産業労働部では、知的障がい者向けの職業訓練は実施されていまして、次は精神障がい者を対象にした企画を作っていきたいと考えていたと聞きました。図々しくも説明会に参加し、名刺を置いて「申請させていただきますので、よろしく願います」と…。

当時は、「障害者雇用促進法（企業が障がい者を雇用する義務など）」では「精神障がい者」は雇用対象者とされていませんでした。2006年障害者雇用促進法の改正で対象とされ、雇用義務になったのは2018年からでした。「トライを受託したので、対象の方がいらしたら、ご案内お願いします」とハローワークの専門援助部門にお願いしても「ここには対象者はいないよ」また「障がい者がたった3カ月の職業訓練やっただけで就職なんかできないよ」などときっぱり断られたことも忘れられません。スタートはそんな時代でした。

しかし、YMSNの設立メンバーは、地域で就労支援をして実績を上げてきたが「それは制度（補助金の要項）内ではない活動だから実施しないでほしい」という当時の横浜市の事情を踏まえ、地域を出て、障がい者福祉制度の補助金を受けずに、「対象者にとって、今必要な支援をする＝まずは就労支援」と、世間の声とは一線を置き、自分たちの力や様々なネットワークを信じて、「トライの企画を成功させて、実績を作る」を目標にしました。

トライ/プログラムの組み立て



トライ“就労準備科”とは

私たちが目指した精神障がい者の就労支援は、支援のゴールを職場定着に置いたことです。

当事者が今どんな支援を必要としているのか見極めることは、大切なポイントで、その見極める期間を3カ月に設定しました。目標は「週20時間の就労を継続して1年続けられること」です。

トライ3カ月のプログラムを左のように組み立て

ました。

座学を通して職場の実践に必要なスキルを事前学習し、職場体験では、支援者がいる中で安心して自分の力を試すことができるか整理します。協力企業での職場体験を通して自分自身を振り返り、本当の就職に繋げる指標作りと対人技能のスキルアップがこの3カ月の目標になります。

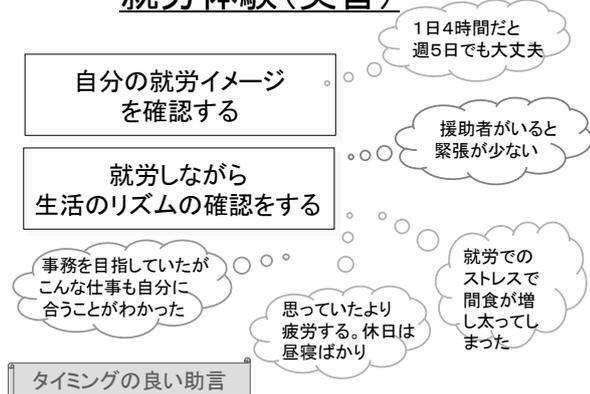
◇就労について理解する 座学

①自分の得意・不得意を理解する ②自分の就労をシミュレーションする ③対人関係をうまく保ちつづけるスキル・テクニックを養う一どの座学でも聞くだけではなく、自分の課題に照らしあいながら、疑問点は話し合いながら自身を理解していく作業です。

◇就労体験で就労について理解する 職場体験

自分の就労についてイメージができたところで実際に職場体験をします。実際の現場で、作業スピードや技術・コミュニケーション・疲労度・通勤・生活リズムの安定が保たれるか等を感じて、自己評価してもらうことに重点を置きました。そのことが、自分にあった就労に大変役立つことになりました。

就労体験(実習)



◇就労体験と振り返り

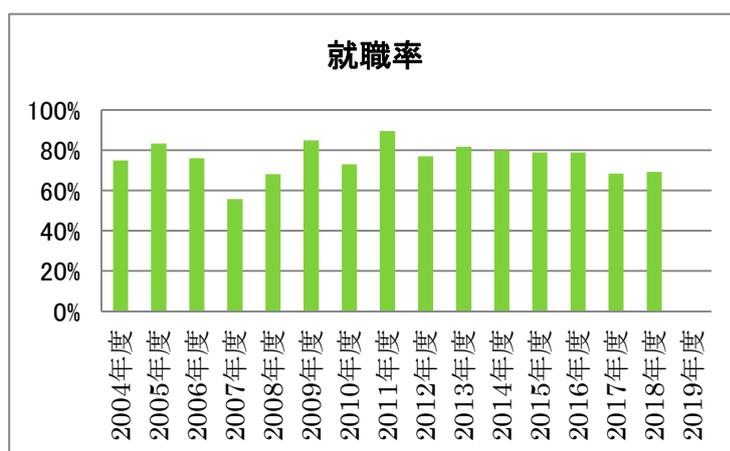
しかし、職場という現場は予測できないことが発生します。就労体験中に現場での振り返りをしていき、お互いに「自分だったら…」「こうしたらどうだろう…」等 意見交換します。

ある日の振り返りでは、「荷物をどんどん渡され、

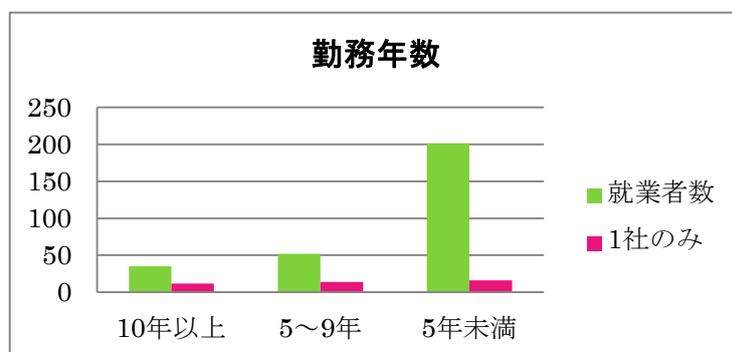
もうこれ以上は持てない、どうしようと思ったことがあった」「その時どうしたんですか?」「頑張って持ちました」。この体験を他の方だったらどうするか、SST(社会生活技能訓練)の技法を用いての振り返りになりました。他の方だったらこんな場面はどう対処したのか、ロールプレイを用いてその場面を再現したところ、「もう持てません」という場面を間近で見て、「ああ、断ればよかったんですね」と、気持ちがすっきりしたと伝えてくれました。タイムリーな現実場面でのやり取りが次の日からの就労の安定につながりました。

トライの成果

今回、15年のデータをまとめてみました。2004年度から2019年度までの15年間で387人が参加してくれました。そのうち、就職した方が287人、未就職または連絡がつかなくて分からない方が100人、15年の



就職率は74%になります。



2011年度は90%の就職者数を得るなど、トライの成果はあったと思われます。

また、就職した方の勤務年数を確認すると、14年間

1カ所の職場に勤務し続ける1期生のAさんとBさんを筆頭に、転職をしつつも10年以上就業し続けている方が35人、5年から9年の就業者は52人です。就業している人288人中、1社でずっと働き続けている方が42人、全体の15%にあたります。

このことは、就労準備科のプログラムの内容への評価とともに、YMSNが職場定着支援として、ジョブコーチ支援を実施していること、フォローアップのためのフリースペースや就労者SST、女子会、男子会、勉強会など、たくさんの余暇プログラム（＝グループ活動）を当事者の方と一緒に作っていることなども定着率に繋がっていることだと思います。転職活動の支援も継続したアセスメントができていますので、比較的にスムーズにいけます。

トライでは、先輩が後輩のために話をしてくれる座学があります。

一つは「先輩の話を聞く」。受講生に合わせて登場してもらおう先輩を推薦し、お願いします。事務系希望の方が多い時は、事務職の方、作業系希望の方が多い時は作業現場の方、またこんな素敵な歩みや気づきをされてきたことを知ってもらいたいと思った時にはそういう先輩… 皆さん喜んで、有休をとって来てくれました。

もう一つは、「ストレス対処」を学ぶ座学。3年くらい前から私と3人の先輩とで「IMRの本」を手にして勉強会を始めました。そこで学びながら、このセッションを自分たちの手で実施してみようということになり、2時間枠を担当することになりました。先輩講師がコメントを寄せてくれました。

トライの受講生の方に講座で何を伝えるのが良いか、それとも良くないか、常に模索していました。意識したのは、今の私自身を見て、感じ、動いて頂くことです。

貴重な講師の経験をしました。本当に感謝しております。（多田 真人）

毎年OG・OB会を開催するのですが、ほぼ50人の方が集まってきました。今年は参加できないけど…とメールや留守電にメッセージを残してくださる方も大勢いらっしゃいます。

トライの終了を大勢の方が残念に思ってくださいましたが、今後は、トライの枠に当てはまらない、手帳もないグレーな若者の就労支援をしていくつもりです。

関係者の皆さま、長い間お世話になりました。紙面をお借りしてお礼をさせていただきます。同時にこれからは、もっと困難な方たち（制度が使えないので）とお邪魔しますので、よろしくお願いします。

（YMSN 鈴木弘美）

このトライの講師をやって、あまり好きでなかった“人の前で話すこと”が少しできるようになりました。対話をしながらであれば、何とかなる、と思えるようになりました。

緊張はします。でも、それに挑戦しないと始まりませんでした。準備をして、周りに協力してもらい、最後におしりを押してもらい、なんとかやれました。とても大きな自信になりました。

仕事の面においても役に立っています。よかったです。ありがとうございました。（五十嵐 豊）

最初、トライの講師として話をしてみないかと話が合ったときは自分でつとまるか少し不安でしたが、実際に働いている人からの生の経験を話してくれればいいとのことでお引き受けしました。

いざ講師として話をしてみると静かに話を聞いてくれる人や活発に質問してくれる人など色々な方々がいましたが、みな就労に向けてなど目標を持って頑張っており、自分の方が勉強になりました。ともに講師をした仲間とともに為になる時間をいただけてとても良かったです。（林 泰行）

かながわプレジョブスクール／一区切りの修了式・ワークブックの完成

3月のプレジョブは卒業制作をメインにやりました。卒業制作は、自分のことや10カ月通って成長したこと、将来設計などまとめて、24日の修了式に発表します。今年は特にそれぞれの「らしさ」が出ている卒業制作でした。

私が印象的だった1人のメンバーさんのことを紹介します。プレジョブで成長したことを考えてもなかなか思いつかず、一緒に手伝いました。私からは、感想が言えるようになったことや不安に気づけるようになったこと、相談することが出来



たなど成長したと思ったことを15個並べてみました。「確かに、そうかもしれない!」とか「これは要らないです。」と言いながら自分で選びました。そして、「プレジョブに通って本当に良かった。もし通っていなかったら、バイトもすぐ落ちて、行くところがなくて家にずっとひきこもっていた」とふと話してくれました。そして、来年度もプレジョブに通い、さらに働くための準備をすることを決めました。

紹介したメンバーさんだけでなく、来年度もプレジョブに通うこと選んだメンバーさんが何人かいます。じっくり学び、体験重ねることで、社会人に必要なことを身につけ、さらに自信になることを目指していこうと思っています。

個人的な感想ですが、修了式の当日の出席者は少なく、全員集合とならずに残念でした。来年度も通ってくれることもあって、今回は卒業という感じがなく、一区切りのような気持ちです。これからも形を変えながら応援していきます。

プレジョブのワークブックが完成しました。タイトルは「未来コンパス キャリアデザインハンドブック はじめよう10のワーク」です。グループでも1人でも取り組めるようにまとめています。例えば、くらしの基本では、健康について、金銭管理など生活に必要なことを学びます。その他、体力作りや朗読、“困った”を解決スキルなど、10個のプログラムを載せました。最後のページはキャリアデザインです。自分のことに整理し、進路選択のために将来設計を考えます。

実際のプレジョブは、仲間と取り組んでいます。メンバーさんからのアンケートからも「1人では難しいけど、みんなとやれたから出来た」という声が多かったです。もし、誰かとやってみたいなど思った方がいたら、身近な人と取り組むか、私たちのところに来てもらえると嬉しいです。このワークブックが必要な方たちに届き、なにか動きだすきっかけになってもらえたらと思っています。

このワークブックを作るにあたり、OB・OGの方からの協力が必要不可欠でした。アンケートだけでなく、作品も載せさせてもらいました。今回の情報誌の表紙(蝶の切り絵)もそうです。

協力してくれたOB・OGの方に本当に感謝しています。

(YMSN 渡部恵梨子)



新型コロナウイルス問題と東日本大震災

～ 多くの「学び」を生かすべき時 ～

みやぎ心のケアセンター気仙沼地域センター 片柳光昭

この原稿を執筆している3月27日は、小池東京都知事をはじめ首都圏の首長が新型コロナウイルスの感染拡大の阻止に向けて、週末の外出自粛を市民に求めた時点である。読者の皆様がこの文面を手にした時点で事態は深刻化しているのだろうか、それとも改善に向かっているのだろうか。「今から思えば、3月27日辺りが一番大変だったよね」と、ホッとしながら過ごしていると願いを込めて筆を進めることにする。

宮城県内では、確認された感染者はこれまでのところ1名であり、首都圏とは置かれている状況が大きく異なっている。しかしながら、マスクや指手消毒液等はどこにも販売されていない。また、公的私的問わず様々な催し、会議、研修会等は軒並み中止、延期となっていることも首都圏と同様であろう。少し前には、スーパーやコンビニの店頭からはティッシュペーパーやトイレットペーパーが姿を消し、お店の前には朝から長蛇の列ができていたが、このような動きはようやく解消されてきている。

新型コロナの問題が社会的に取り上げられるようになったのはおおよそ2月に入ってからであったが、例年、東日本大震災（以下、震災）の被災地では、新年を迎えると少しずつ3月11日に向けて、地域全体が独特の雰囲気包まれていくように思う。住民からの相談も震災に関連した内容と、それに伴う精神的健康の不調や低下に関する訴えが増えていく傾向にあった。しかし今年は、3月に入るまではそのような経過ではなかった。住民の方からも「いつもは年が明けると『震災』ってなるけれども、今年はコロナだからね」との声を複数聞いた。住民の方々は、例年のこの時期とは様相が異なっていることを肌で感じているように思われる。

では、どのように感じているのだろうか。印象的だった住民の方からの声を載せていく。

「今年はコロナだから、震災のことを思い出す機会が少なくてよかった」

「今年はコロナで、こうやって震災のことは忘れていくんだかね」

「今年は追悼式が無くなってホッとした。気が重くなるんだよね、毎年。思い出すから」

「今年は追悼式が無くなったね。仕方ないけど、でも献花台を設置しただけでもできてよかったよね」

「街から物が無くなった状況って、震災の時と同じだね。こんな感じだったんだよね、あの時」

「震災の時は、本当に大変だったのは東北だったでしょ。今回、コロナは全国の人がみんな大変になっている。当時、東北ではこんな感じだったんだって伝わるかな。伝わって、震災のこと、忘れないといいな」

「地震と津波は一気に来た災害だったけど、コロナはゆっくり来ている災害だね。スピードが違うだけで、起きていることは同じ気がする」

これらの声は、被災地の住民を代表したものではなく、偶然に筆者の耳に届いたものの一部である。内容は十人十色であるが、時期的に近かったためか、震災と関連させたり対比させて語られたりすることが多かった印象である。その上で、起きている状況が震災当時に似ていると捉えている方も少なくないように感じた。確かに、災害の内容については、地震や津波とウイルスとの違いがあり、また家屋の流出や損壊の有無等の被害状況にも大きな違いがあるが、未曾有の（あるいは近年では稀にみる）出来事であること、その影響が社会生活のみならず個人の心理状態や精神的健康度にも広く及んでいること、更に時間的にも長期に及ぶ（今回の場合は予測であるが）ことは、震災と同様である。情報が入らず、また入った情報はデマ

なのか煽られているのか、それとも本当のことなのか分からない。更には、この先の見通しが見つからないといった状況と、それに対して人々が疑心暗鬼や不安を募らせている様子は、まさに震災後そのものではないだろうか。

今回の問題では、その他にも、災害時における支援の難しさを改めて感じた出来事があった。クルーズ客船「ダイヤモンド・プリンセス」における感染対策をめぐり、実際に支援に入った感染症を専門とする医師が船内での様子を告発し、それに対して先に支援していた別の医師が反論し、その後 SNS 上でそれぞれが支援のあり方に関して見解を述べ合うというニュースがあった。このような出来事は、震災後の支援においては数多く耳にしたことであり、また私自身も経験したことである。どちらが正しいということではなく、それぞれが置かれている立場、担っている役割、背景にある専門性、優先したいことやミッション、個人の価値観が種々様々であるからこそ当然起こることで

あり、それだけ困難さが含まれていることの裏返しであるように思えた。

新型コロナウイルスの問題は予断を許さない。しかしながら、震災時と重なることが多くあるのであれば、震災後の困難さをここまで乗り越えてきた経験も多く役立つように思う。その一つを挙げるとすると、混沌としている今のような状況では、批判的精神や犯人探しのような考えを一旦脇に置き、一人ひとりが首相や知事の要請に最大限協力し、自らも積極的に取り組むことが重要である。そしてこの問題が落ち着き、検証の段階に入ったら批判的精神をもって大いに議論を深めたら良い。思い起こせば、震災当時は「絆」という言葉のもと、誰もが、見知らぬ誰かのために一緒になって立ち向かっていったのではないか。

我々は震災から多くのことを学んだ。今、それらを生かすことが求められている。

中高生の放課後支援 Irodori

最近のイロドリでは、トランプゲームやクイズ、今年はお花見ができなかったので、みんなで画用紙で桜を作り、窓に飾るなど工作も楽しんでいます。

おやつ作りでは、新メンバーからの提案で「ベニエ」（揚げたペストリー）を作りました。「イロドリ風ベニエ」は、食パンにホットケーキミックスを溶かし、パンにつけて油で揚げ、粉砂糖をかけて完成。サクサクした食感や優しい甘みで、みんなも「美味しい！」とたくさん食べていました。

3月25日には城ヶ島へ卒業旅行（日帰り）に行ってきました。城ヶ島を散策したり、公園ではキャッチボールを楽しむことが出来ました。海を見ながら食べるマグロ丼はとても美味しく、みんな喜んでいました。お天気もよく、とても充実した一日を過ごすことが出来ました。

4月から進学・就職するメンバーが多いので、卒業旅行や春休みのプログラムを楽しんでもらい、元気に卒業していく姿を見ることができました。これからそれぞれの道で頑張ってもらいたいと思います。（YMSN 原悦子）



城ヶ島ハイキング



YMSNの活動で学んだこと

～ メンタルネットのアルバイトを振り返って ～

私が横浜メンタルサービスネットワーク(以下、YMSN)でアルバイトを始めたのは、大学2年生になる時期でした。福祉について何も知らなかった私は「講義を受けても想像が膨らまなくてよく分からない」と感じており、何か活動してみたいと考えていた時に先輩からYMSNを紹介していただいたことがきっかけでした。約3年のアルバイト期間で、トライやIrodoriを中心に色々な経験をさせていただきました。今回は、大学の卒業を機にYMSNでお世話になった3年間の振り返り、感じたことを書かせていただきます。

私はスタッフの補助という形でプログラムに参加していましたが、メンバーさんと一緒に楽しく過ごさせてもらっていたので、メンバーとスタッフ半々の気持ちや目線であることが多かったです。そのため、自分としては援助関係というよりも一般的な人間関係に近い関わり方ができ、アルバイトならではの貴重な機会が得られたと思います。

そして、こうした関わり方ができたことは、私の中の精神障がい者のイメージ像を広げることにもつながっていきました。関わりを持つ以前は、精神障がい者はおとなしく物静かな人というイメージを持っていました。しかし、実際に出会ったメンバーさんの人柄は十人十色で、明るく話しをしてくれる方が想像以上に多く驚いた記憶があります。こうして驚くことができたのは、私が実際に会うことができたからです。そして、これまで漠然と想像していた「障がい者像」は、メンバーさんの顔が思い浮かぶように変わっていきました。

また、YMSNでの経験で支援のおもしろさを感じ、その経験が福祉の勉強をする上でのモチベーションになっていました。私は内向的な性格もあいまって、「上手くできた!」と思える機会はほとんどありません

でしたが、大学で援助技術・制度等の知識を学びながら、それを実践できる場があったこと、メンバーさんやスタッフさんとの交流で感じたことは、自分の糧になっていたと感じます。

なかでも印象深いのは、トライの実習補助をしていた時のことです。作業中にメンバーさんから、実習に対する不安や今後の就職活動に関する不安を聞いた際に「話を聴いてくれてありがとうございます。気持ちになりました」と言ってもらえたことがありました。それまで、社会経験の無い自分が何か言うのは偉そうで、どんな関わり方をしたらいいのか悩んでいたため、その一言がとても励みになりました。

そして、メンバーさんが変化していく様子を見ることができたことも支援のおもしろさを感じた大きな要因でした。大学で定められている実習期間は1カ月程度で、支援者としての学びは多い1カ月ですが、利用者さんが支援を受けてどのような変化が起こっていくのかまで知ることはなかなか難しかったです。その点で、YMSNでの3年間は、プログラムの中での変化、プログラムを卒業してからの変化を見ることができました。その変化は、全てが順調に進んでいるわけではなく、以前からの流れを受けて起きているものでした。

YMSNでは、メンバーさんの居場所として日頃から関わりが持て、且つ継続的に関わることができたことから、支援が必要となる状況もそういった地続きの中で起きていることを実感できました。また、何がきっかけとなるか分からないことが大きな変化につながることもありました。自室にこもりがちだった中学生の自宅訪問に同行させていただいた時のことです。何度か訪問を重ねたある日、「Irodoriへ来て一緒に食べたい料理を作ろう」という話題が上がり、一緒にメニュー選びをしました。それがきっかけでIrodoriに参加することになり、メンバーになってく

れました。きっかけは訪問を重ねた回数なのか、活動に参加する理由ができたからなのか、定かではありません。しかし、そうしたきっかけがあり、その子の色々な一面を知ることができるようになったことが嬉しく思えた出来事でした。その他にも様々な「思いがけない出来事」を経験させていただきました。支援に正解はない、という言葉をよく耳にしますが、一人ひとり本当に違って、その都度たくさん関わりたいたくさん試すことが大切なのだと勉強させていただきました。

今回こうした機会をいただきYMSNでの3年間を振り返ってみて、私が学ばせていただいたことは、「寄り添い方と見守り方」だったと感じます。その象徴だと感じるのは、毎週金曜日に実施されているIrodori 図書館です。この日は、他プログラムに参加中のメンバーさんだけでなく、OG・OBのメンバー

さんも自由に出入りされています。毎週来られる方もいれば、久しぶりに来られる方もいらっしゃいました。久しぶりに来る方がいるということは、YMSNがメンバーさんと長くつながり続けていること・メンバーさんが「何かあったら話に行こう」と思える場所であるということだと思います。そして、寄り添い見守ることで明らかになった“不足している支援”があれば、それに応えていけるよう活動を変化させてきたYMSNの歴史があったのだらうと感じました。

最後になりますが、スタッフの皆さまをはじめ、YMSNのご縁でお世話になりました支援者の皆さま、そしてメンバーさんから、本当に多くのことを勉強させていただきました。こちらでの経験は、福祉に携わる姿勢の軸の一部になっています。ありがとうございました。

(石井 有紀)

ジョブコーチ／若者の支援で出会う出来事

最近、自閉症スペクトラム傾向がある若い方の支援に入る機会が多く、共通して感じていることがあります。彼らは社会経験も少なく、学校を卒業してすぐに就職している方も多いため、社会で働く上での常識的なことを習得出来ていないのです。主に障がい特性が関係していると思いますが、例えば、先輩から仕事を教えてもらってもメモを取らず、そのことで何度も同じ質問をしてしまう。「適度な休憩」がわからずに長い時間休憩を取ってしまったたり、休憩の仕方がわからずに携帯でゲームをしたりしてしまう。仕事を教えてもらっても返事が出来ない（頷くことは出来ているが）、敬語がつかえず先輩や上司に友達と同じような言葉遣いになってしまう。注意されても謝る前に、言い訳が先に出てしまう。気持ちや伝えたいことが上手く伝わらないと、声が大きくなり、時には怒鳴ったように聞こえてしまう。多少の遅刻だと連絡をしなくてもいいと勝手な判断してしまい会社へ連絡をせず、1分の遅刻。準備に時間がかかり（自分の支度の時間がよめない）、就業時間に仕事が始められない。会社からの指示で仕事をすべきこと自体を理解しておらず、自分勝手に予定を決めてしまうなど、私達が働く上で当然身につけているだろう、理解しているだろう「常識」が身につけていないのです。支援に入っても予想も出来ないことが多く、私も時々驚いてしまいます。当然、そのような振る舞いは職場でも理解されず、困惑されます。彼らの多くは自身の行動や言動が周囲とズレていることに気がついていません。支援を通して気が付いたことは本人へ声かけしていますが、それを受け入れられずに修正することが難しい方もいます。

職場へ説明や理解を求めていくことはもちろんのこと、まずは彼ら自身が社会で働くということへの意識や自覚、社会でのルールを学ぶことの必要性、今後、職場定着する為にもそのことを「学ぶ場所」が必要であることを強く感じます。

YMSNでは新たにビジネスマナー講座を土曜日に開くことにしました。 (YMSN 吉成広美)

定例研修会

- ・精神保健福祉研修会
- ・日程 毎月 第2金曜日 (全10回)
- ・時間 PM. 7:00~8:30 (8月はお休み)
- ・場所 YMSN研修室 (上大岡駅 徒歩5分)
- ・内容 ひきこもり(詳細はHPで)
- ・ホームページをご覧ください <http://forest-1.com/ymsn>

当事者のためのグループ活動

- ・就労フォローアップミーティング
- ・年1回、OG・OB会の開催
- ・就労者SST
- ・日程 毎月 第1土曜日 時間 PM. 1:00~2:30
- ・場所 YMSN研修室
- ・当事者グループ活動

スキルアップ研修 詳細はホームページ

- ・C B T基本の”ほ” 10時から16時 メンタルネット事務所にて 5000円
- ・6/14 (日) コロナウイルス感染防止のため、延期させていただきました。

事務局より

- ・2020年度 総会のご案内
- ・日程 : 2020年5月31日 (日)
- ・時間 : 午前10時30分~午前11時10分
- ・場所 : YMSN兼修室 (横浜市港南区上大岡西1-12-3-204)
- ・総会後に研修・懇談会を企画しています。お気軽にお越しください。
- ・時間 : 午前11時15分~午前12時30分

2019年度.寄付金について

- ・認定NPO法人の認定を受けた11/20以降寄付してくださった皆様、国税・市民税・県民税課に寄付を頂いたことを通知いたしました。引き続き、2020年度もよろしくお願ひ致します。

正会員：5,000円(個人) 賛助会員：12,000円(団体)
(正会員・賛助会員にはYMSN情報誌を無料配付)

振込先：郵便振替口座 00250-6-71607
横浜メンタルサービスネットワーク

会費を銀行・コンビニATMやネットから振り込む場合の入力方法をご案内します。

振り込み料は432円かかりますが、郵便局に行かなくても良いので楽は楽です。

(金融機関名) ゆうちょ銀行 (店名) O二九
(種別) 当座 (口座番号) 71607
(名義) ヨコハマメンタルサービスネットワーク

季刊 YMSN情報誌 Vol. 16 No. 4
YMSN 第64号 2020年4月15日発行

年間購読料1,000円(年4回発行) 1冊頒価300円

発行：NPO法人 横浜メンタルサービスネットワーク
理事長 鈴木弘美 編集代表 森川充子
〒233-0002 横浜市港南区上大岡西 1-12-3-204
TEL 045-841-2179
FAX 045-841-2189
<http://forest-1.com/ymsn/>
e-mail : ymsn@forest-1.com